

飯山市の保育環境に関する報告書（案）

— 魅力ある保育の実現に向けた現状と課題 —

全国的な少子化が進む中、飯山市においても出生率の低下や園児数の減少が進行し、保育の現場ではさまざまな課題が顕在化しています。これまでの環境を維持しながらより充実した保育を実現するためには、適切な対策が不可欠です。本報告書では、飯山市の保育環境の現状を整理し、課題の解決に向けた方向性を提案します。

1. 現状と課題

飯山市の保育環境に関する現状と課題について、検討会での議論を踏まえ、以下の2つの視点から整理しました。

1. 子どもにとっての保育園

- ▶ 公立保育園では園児数の減少により、異なる年齢の子どもたちと一緒に保育する混合保育が増加し、発達段階に応じた保育の提供が難しくなっている。
- ▶ 不適切保育の防止の観点から、保育士が気持ちにゆとりをもって働ける環境と、保育士の十分な確保が必要である。
- ▶ 子どもの豊かな心の成長のため、保育の質と魅力の向上が求められている。
- ▶ 3歳未満児には市内産コシヒカリが提供されている一方、公立保育園では3歳以上児が白米を持参する必要がある。
- ▶ 耐震対策は施されているものの、3歳未満児向けの施設設備が不足している。
- ▶ 施設の衛生管理や防犯対策の強化に加え、年齢に応じた遊具の導入が求められている。
- ▶ 施設の老朽化が進んでおり、改修や安全対策の強化が必要である。

2. 保護者にとっての保育園

- ▶ 現在待機児童は発生していないが、年度の途中からの入所の場合に、希望する保育園に通えないケースが生じている。
- ▶ 土日・休日保育や病後児保育の利用に際し、お弁当や午睡布団の持参、利用申請手続きの負担が大きいという声がある。
- ▶ アプリを活用した写真付き情報発信や電子申請の導入を求める意見がある。
- ▶ 近隣の保育園に通えない場合の通園支援として、通園バスの運行や補助制度の整備が求められている。
- ▶ 未満児の保育料無償化を求める声がある。

2. 保育提供体制の方向性

上記の現状と課題を踏まえ、飯山市の保育提供体制の方向性を以下の4つの観点から整理しました。

1. 地域に根ざした保育の推進

- ▶ 地域とのつながりを強化し、地域に開かれた保育園づくりを推進する。
- ▶ 公立保育園においては、一律の運営方針にこだわらず、地域の特性を活かした柔軟な運営を試行的に導入する。
- ▶ 小学校跡地などの未利用施設の活用および保育施設や子育て支援拠点の整備を検討する。

2. 保育環境の整備と持続可能な施設運営

- ▶ 公立保育園の施設改修を早急に進め、特に3歳未満児向けの設備を充実させる。
- ▶ 老朽化した施設の改修を進めつつ、各地域の保育需要に応じた持続可能な運営を図る。
- ▶ 少子化を見据え、統廃合の可能性を慎重に検討するとともに、市全体で保育・教育の提供体制を見直す。

3. 保育の質向上と職員体制の充実

- ▶ 子どもの健やかな成長や個性を生かした保育のためには、年齢ごと一定程度の人数となるクラス編成が望ましい。
- ▶ 保育士の確保とゆとりある職員配置を進め複数担任制を標準化する。
- ▶ 保育士の労働条件の改善、多様な働き方の推進、研修制度の充実を図り、魅力ある職場環境を整備する。

4. 保護者負担の軽減と利便性向上

- ▶ 3歳以上児への市内産コシヒカリの自園炊飯による提供を進め、無償化の検討を行う。
- ▶ 病後児保育・休日保育・配慮が必要な児童の受け入れ体制を充実させ、多様な保育サービスを拡充する。
- ▶ 電子申請や情報発信のデジタル化を推進し、利便性向上と保育士の業務負担軽減を図る。
- ▶ 遠距離通園者への補助制度を公平性の観点から見直し、適切な支援策を検討する。
- ▶ 未満児の保育料無償化を進めるとともに、自宅で育児を行う家庭への支援策も併せて検討する。

おわりに

本報告書では、飯山市の保育環境に関する現状と課題を整理し、その解決に向けた方向性を提案しました。子どもたちの健やかな成長を支えるとともに、地域全体で支え合う持続可能な保育環境の整備が求められます。本報告書が今後の施策立案の一助となることを願います。